

ガバナンスのハイブリッド化：日本型ガバナンスによる米国型の一部導入



経営情報学科

たけした せい じ ろ う

竹下 誠二郎

● 連絡先

TEL：054-264-5423 FAX：054-264-5423

キーワード

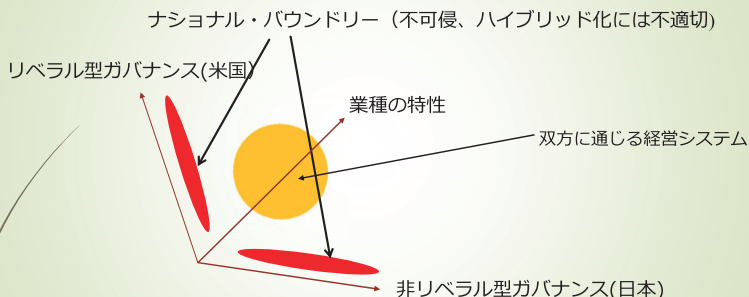
ハイブリッド、ガバナンス、日本型、非リベラル、米国型、リベラル

米国型の単一モデルは構造的・文化的要素を押し切れると勘違いしましたが、逆に日本では構造的・文化的要素への固執が転換・飛躍の障壁となっています。競合する資本主義の中で組織は多角性を競い合った方が健全です。それ故、双方の長所・短所を理解してハイブリッド化することが必要となるのではないのでしょうか？

ハイブリッドの可能性を業種・業態の類似性から探るとともに、ハイブリッドが可能でない「ナショナル・バウンダリー」を定義することによって、ハイブリッド化の領域をより明確にしようと思っています。これは日米の企業犯罪などに表れる文化的・商慣習的側面など、外部圧力では変化しない領域を研究・検証して行おうとしています。（この研究は英・仏の研究者と共同で行っています。）

これにより、ハイブリッド化が可能な領域、そして不可侵の領域が明確になり、他ガバナンスの一部導入の可能性を追求することが可能になると考えています。

ナショナル・バウンダリー(国の領域)の定義



静岡県立大学 経営情報学部

アピールポイント

- ・米国型ガバナンスと日本型ガバナンスは必ずしも対立するものではない
- ・双方の長所・短所、そしてハイブリッド化が可能な領域と不可能な領域を理解することが必要
- ・ハイブリッド化により、他ガバナンスの一部導入が可能となり、生産性・効率性が高められる